

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市新田児童館	
2 指定管理者	特定非営利活動法人せんたい杜の子ども劇場	
3 指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和5年度 47,877人(前年度比 108.9%) ・令和4年度 43,958人 ・令和3年度 40,665人	
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 78,069千円 (67,945千円) ・ その他市が負担した費用 0円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0円 (0千円) ・ その他収入 0円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館地域連絡会、児童クラブ保護者懇談会を実施。	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。 なお、事故等発生の際に、本市条例及び児童館管理業務協定書において定められている仙台市への報告等が速やかになされなかった。また一部職員において、施設の設置目的である児童健全育成への理解が不十分であった。	27/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。 なお、事故等発生の際に、本市条例及び児童館管理業務協定書において定められている仙台市への報告等が速やかになされなかった。	29/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。 なお、日常的な安全点検や、利用前の安全確認のための巡回巡視が適切になされていなかった。	23/24
IV サービスの質の向上	リーフレットや児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。地域との交流事業においては、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。 なお、事故等発生の際に、本市条例及び児童館管理業務協定書において定められている仙台市への報告等が速やかになされなかった。また、一部職員において、子どもの人権・人格に配慮した育成支援への理解が不十分であった。	16/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人せんだい杜の子ども劇場）による自己評価》
<ul style="list-style-type: none"> ・児童クラブの登録上限数が増え、待機児童も5人となつての新年度のスタートは本館と3サテライト共に、気の抜けない状況が続いた。9月からの後半、職員打合せとミーティングを常勤と全体さらに各サテライトでも毎日行う事によりしっかりと共通理解と信頼関係を構築し運営に当たることが出来た。 ・地域連携においては2回「地域公開セミナー」を実施。特に2月の回は6年生全員、教員、地域の方々と一緒に体験し、児童の次々と出される質問に驚き共感した。児童館の目標としてきた形を実現出来た。 ・小学生の参画事業「子どもまつり」はコロナ後久しぶりの開催、こどもスタッフの企画で準備が進み、当日は中学生の手伝いも得て充実した活動となり、スタッフの達成感も大きかった。 ・子育て支援の取り組みとしては今年度新たに「うえるかむ赤ちゃん講座」を家庭健康課と東部児童館との共催で実施、妊娠期からの支援に乗り出せた事は0・1歳の児童館への需要が増す傾向の中で意味のあることだった。またコロナ禍で中断していた環境保全米ネットワークとの「新米食べ比べ」では、5種類のお米を幼児が一生懸命ほおぼる姿もあり親子でお米に関心を持ち楽しんでもらう企画となった。 ・児童館への意見や評価を頂く「新田児童館地域連絡会」は2回開催、令和5年度から児童クラブの代表者も加わり、活発な意見と信頼を寄せて頂き心強さと新たな思いを抱くことが出来た。 ・子育て支援者のネットワーク「NOKISHITAねっと」は連携が深まり情報交換にとどまらず、年長児の児童館訪問、育児支援のお互いのスキル活用など機能が活かされた。 ・職員全体による館内と各サテライトの危機管理意識は毎日のミーティングと安全点検で確実に向上し、互いの信頼関係も深められた。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、児童館まつりに替わる「こどもまつり」を開催した。小中学生が子どもスタッフとして企画運営に主体的に関わり、行事を通して達成感や自己肯定感を得られるよう子ども達の意見が実現できる支援を行い、主体性や社会性を育んだ。また、自由来館で利用し日常的に小学生と遊んでいる中高生も当日ボランティアとして小学生をサポートする等、様々な場面で異年齢交流が図られている。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、3歳児からとしていた幼児クラブの登録を2歳児からに変更し、年度途中で2歳になった幼児も受け入れ、より多くの幼児が参加できるよう工夫した。子育て支援クラブとの共催行事を、多彩な内容で月に2回から3回実施し、好評を得ている。令和5年度から新たに、宮城野区家庭健康課と東部児童館と共催で妊娠期の保護者と0歳児親子を対象とした「はじめまして うえるかむ赤ちゃん講座」を実施しており、近隣の地域と一体となって子育て支援に取り組んだ。</p> <p>地域交流推進事業においては、新田小学校や父母教師会、連合町内会の協力のもと、「地域情報公開セミナー」を開催した。2年生のPTA親子行事や6年生の授業の一環となるなど、児童館が中心となって地域や家庭への啓発を図りながら子どもが育つより良い環境作りに努めている。市内の高校生による「オータムコンサート」を企画開催し、乳幼児親子や地域の方から好評を得た。音楽に触れる貴重な機会と共に高校生が自己発揮できる場ともなっている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、サテライトの環境を考慮し、小さなテントを使って落ち着けるスペースを作ったり、遊びのコーナーの充実を図る等安心して過ごせる環境作りに努めている。SOATの協力のもと、森の探索や砂場でのワークショップ、制作活動等の自然体験を始めとした様々な体験活動を取り入れ、子ども達の興味関心や遊びへの意欲を高めながら自主性や社会性を育てている。</p>	A

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課